令和４年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑨子どもの遊びの理解と支援

◆　遊びと学びは一体であり、区別がないということ、たくさん遊ぶ子は学習意欲も出てくるということを学びました。私たちにできることは、援助という形で関わることですが、援助にも色々あると思いました。子どもたちと関わる中で、気持ちに寄り添い、一緒に生活を過ごし、居心地の良い場になれたら良いと思いました。限りある時間や日々の中で、子どもたちの可能性を伸ばしていきたいと思います。

◆　子どもの生活の中で遊びはとても大切だと学びました。成功するためにはどうするか、失敗しないためにはどうするかが大事なのではなく、そこまでの過程と経験が大切だなのだと分かりました。最近は外で遊ぶよりも、室内でゲームやスマホ遊びをする子どもが多く、コミュニケーション能力が低下していると聞き、外遊びや体を動かして、人との関わりをもつことは重要だと思いました。子どもたちと遊びを通して良い関係を築きたいと思います。

◆　幼児教育の大切さと子どもを完全に理解するのが難しくても理解しようとすることが大事であることを学びました。さらに、学びに向かう力、人間性、知識及び技能の大事さのほか、思考力・判断力・表現力などの３つの柱を今回の研修で初めて知りました。また、非認知的能力は生きていく上で必要であり、人と人とのつながりの中にあるため、遊びは子どもが成長していく中でとても大事なものであるということを学びました。

◆　今回の研修でロバート・フルガムさんの著書「人生に必要な知識は、全て幼稚園の砂場で学んだ。」という言葉に心を打たれました。保育園に勤務経験がある私も、０～６歳までの遊びが大事であるということ、外遊びは子どもと一緒に裸足になり、何かを作ったり、笑ったり、走ったりしたことがとても楽しかったことを思い出しました。遊びは発達段階に欠かせないということを改めて感じました。

◆　遊びが子どもの発達にとても重要であることを理解できました。失敗しないようにするのではなく、遊びを通して自分で試行錯誤しながら学んでいくことの大切さも知ることができました。また、ただ遊具や玩具で遊ぶことだけでなく、同じ物を一緒に見たり、大人を見てまねたりすることで遊びが生まれるなど、生活が遊びになることも分かりました。講義で学んだ、子どもへの４つの見方を参考に、子どもの心に寄り添って接していきたいです。